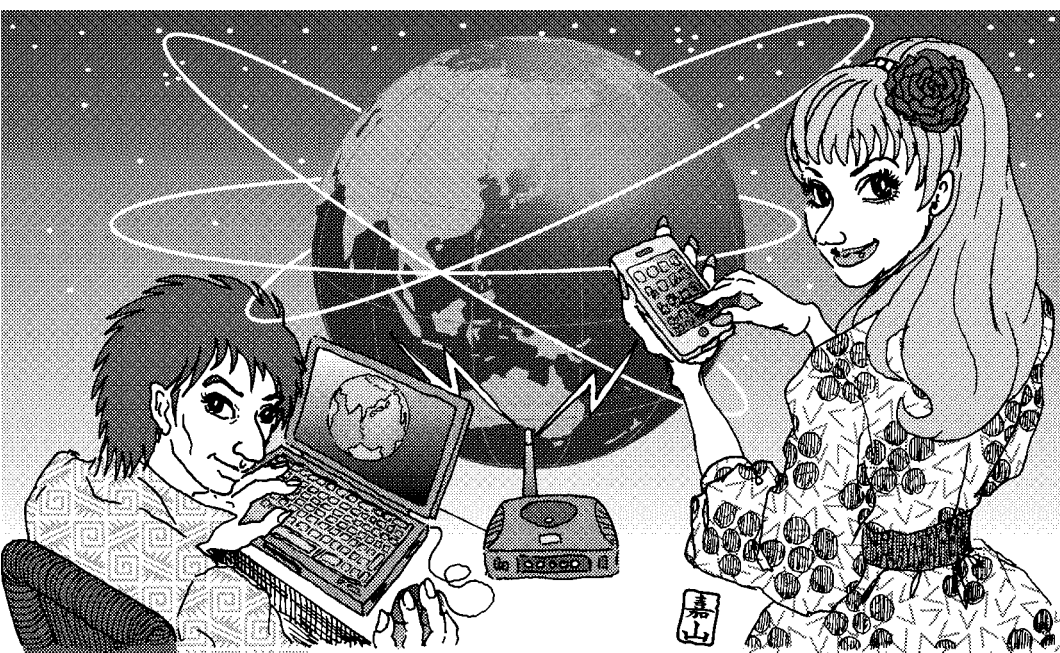


テクノ・コメンテーター
工学博士 岩田 倫典
（企画制作：日刊工業新聞社事務局）

メディアの革新は
インターネットとともに



ハルス変調技術からの情報伝達とコンピュータによる処理のデジタル化が進んだ1972年、CITT（国際電信電話諮問委員会）のジュネーブ会議にISDN（総合デジタル通信網）のアイデアが提案された。商業には73年に開発の米ゼロックスのLANイーサネットが伝送速度を75年に毎秒10⁶bit/sと規格化し、威力を示した。後のコマ制大統領が情報スーパーハイウェイ構想を提案したのは87年のこと。ニーマディアの掛け声のもと日本では高度情報化社会の実現のために、84年にINS（インフォメーション・ネットワーク・システム）と呼ぶISDNの実験を三鷹・武蔵野市で行った。双方向性をつづけたもの専用回線の高価な通信料で、利便性は既存メディア並であったため、一般家庭へは普及せず、目玉のキャブテンシステムは2002年に廃止された。しかも、INSでは伝送速度は毎秒100⁶bit/s前後と遅く、20世紀末の電話利用のADSL（非対称デジタル加入者線）の毎秒数Gbit/s（21世紀初めにFTTH（家庭用光ファイバー通信回線）の毎秒ギガビットが実用化されるとともに、毎秒スカット以上の高速伝送のプロッドバンドがメディアの担い手になる。

ニュー、マルチ、ブロードバンド、ITの次は

ニーマディアに次いで現れたマルチメディアは、60年代には光やスライドなどを一体化したショーの呼称であったのが、20世紀末にはコンピュータとインターネットを利用して映像、文字、動

画、音声など同じデジタルデータとしてさまざまな処理・提供する方法として再登場する。ブロードバンドは、00年からのデジタル衛星放送の米CATV（ケーブルテレビ）業者のキャッチフレーズから、メディアはデジタル化技術から、わが国では01年をブロードバンド元年と呼んでいる。88年にスウェーデンのマク・ワイの提唱したヒギタスの言葉は91年のサイエンスアメリカという普及する「IT基本法」により普及する。N2N（次世代ネットワーク）は既存の通信網をインターネット通信規約で統一し、毎秒20⁶bit/sで動画配信に威力を発揮する。06年に家賃、07年度にサービスを開始したNTTグループは、コヒキタス・ブロードバンドへ、13年度の契約者を1000万と予測。89年のベルリンの壁の崩壊、91年のクリントン大統領の経済政策に伴う軍事技術の開放により、69年に国防総省が開発したアーバンネットは69年には全米科学財団のNSFnetとして、さらにインターネットと名を変えて接続サービス企業により一般に普及することになる。N2Nの種々なパブリックOS（基本ソフト）間の会話を可能にした転送管理規約と相互通信規約はTCP/IPと呼ばれ、日本も93年に商用に展開。ADSLはアナログ電話用のメタルケーブルに専用のモデム（変復調装置）を装着して高速化を図ったもので、原理は99年に米ベルコアが開発。日本では99年秋より一般利用者へのサービスが開始されたが、06年の1451万回線をピークに09年には118万に減少。99年にサービスを開始したFTTHは遅ればせながら増加を続け、09年には1501万の加入者数を入れている。00年からのデジタル衛星放送の米CATV（ケーブルテレビ）業者のキャッチフレーズから、メディアはデジタル化技術から、わが国では01年をブロード

情報社会の基盤 ・デジタル技術

「メディアはデジタルを軸に」



MITSUBISHI
三菱電機
Changes for the Better

トンネルに入ると、
そこは雪国であつた。

有機EL方式ユニット

技術的に困難とされる有機ELディスプレイの大型化。そこで三菱電機が開発したのは、わずか96mm角の小型有機EL方式ユニットでした。これらを敷き詰めて構成した100インチ超のディスプレイは、ユニット間の枠を極限まで縮小させたことで、大型でありながら目地のない滑らかな表示を実現。さらに角度をつけて並べることで、曲面や球体などの特殊形状も可能になりました。映像は平面に映すもの、そんな常識から自由になったディスプレイが、まだ誰も見たことのない驚きや感動を、鮮やかに映しだします。

〈キーテクノロジー〉で変える。

三菱電機の
オーロラビジョンOLED
（オーガニックLED）

三菱電機株式会社 90th Anniversary

©この広告についての詳しいお問い合わせは、adv.webmaster@rt.MitsubishiElectric.co.jpまたはFAX.03-3218-2321(宣伝係)まで。